

ゼロから学ぶ 若者のセクシュアリティ 障害のある子ども



日本福祉大学
伊藤修毅

いとう なおき / 日本福祉大学准教授。
専門は障害児・者のセクシュアリティ教育、
青年期教育。共著に『イラスト版発達に遅れのある子どもと学ぶ性はなし—子どもとマスターする性のしくみ—いのちの大切さ』(合同出版)、『くらしの手帳』(全障研出版部)など。

第5回 マスターベーション

(株)TENGAがおこなった「マスターベーション世界調査」によると、日本人男性の96%、女性の58%がマスターベーションを経験しているそうです。しかし、学校でマスターベーションについて教わった人はわずか12%にとどまっております。これは調査対象の18カ国の中でロシアと並んで最下位とのこと。

自慰、オナニー、ひとりエッチなどさまざまな言葉があり、最近では「セルフ・プレジャー」を推す声も強いです。ここでは、「マスターベーション」に統一して話を進めます。

マスターベーションの権利

本連載の第1回目で1999年に世界性科学会議が採択した「性の権利宣言」を紹介しましたが、ここに「性の権利は」私たちが自分自身の身体をコントロールし、楽しむ権利をも意味する」とあります。つまり、マスターベーションをすることは、私たちの大切な「権利」であるということです。しかし、いまだに、マスターベーションを「問題行動」ととらえている人も少なくありません。人前でしてしまう、うまく後始末ができ

ないなど、問題になることはありませんが、それは適切な場所や方法を教えていないということであって、マスターベーションそのものの問題ではありません。

むしろ、きちんとマスターベーションができることは性的自立の第一歩であり、きちんとマスターベーションができる力を養うことはセクシュアリティ教育の第一歩と言えます。では、なぜ、ここまでマスターベーションを重要視するべきなのかを考えていきましょう。

マスターベーションの役割

日本福祉大学の木全和巳さんは、マスターベーションの役割を、①セルフ・プレジャー(自己娯楽)、②セルフ・コントロール(自己制御)、③セルフ・ディスカバリー(自己発見)、④セルフ・プライバシー(自己秘密)の4点に整理しました²⁾。マスターベーションは、①自分のからだを自分で使って楽しむ行為で、②性欲を含む自己コントロールの力を身に付けることができるという役割があります。また、マスターベーションの際には性的なファンタジーを利用するので、③自己の性的な好みや傾向を知る自己発

見の役割もあり、同時に、④「ひとりになる力」「秘密をもつ力」を身に付ける契機にもなるということです。

障害のある子のマスターベーションを強く禁止する保護者・支援者は少なくありません。マスターベーション禁止の環境で育ったAさんは、かなりのストレスをため込み、さまざまなしんどさを「問題行動」で表現していました。シヨートステイを利用し、シヨートステイ先ではマスターベーションOKとしたところ、その「問題行動」のほとんどが消失しました。Bさんは、強度行動障害と言われる状態にまで至ったようですが、ケアホームに入り、個室が保障され、マスターベーションができる環境に置かれたら、パタリと行動障害がおさまったそうです。こういった事例を聞いた際に、マスターベーションが、いかに「偉大」な行為であるかに気づかれます。本誌で2015年から3年間連載されていたおがわ・フランソワさんの漫画は、15歳のしようちゃんが布団の中でごそごそとマスターベーションをしているシーンから始まりました。この時、「ごめん、邪魔して…」とそっと布団を掛けてあげたお母さんの対応³⁾はステキでしたね。

性的な自己実現への道

冒頭で紹介した調査を実施した(株)TENGAは、「世界中の人々の性生活を豊かにし、人を幸せにする」をミッションにしています。そのなかで「性にまつわる悩みや問題を解決することを目的に生まれた」TENGAヘルスケアという会

図 マスターベーションの3つの段階を通じてセクシュアルウェルネスへ

